

世界には子どもが働かなければ 生活できない地域がある

芸書活動に 参加しよう

若い世代は、社会に貢献したいという意欲のある人や、そのための行動をおそれない人が、ほかの世代よりたくさんいるといわれています。まず率先して、募金活動に参加してみましょう。また、慈善活動につながる商品を購入するほか、「親切ノート」をつくって毎週、家庭や学校・地域でできる親切を考えて実行し、そのときに感じた

ことを書きとめていくのもいいでしょう。少しでも継続的に取り組めば、世界を変革する力につながります。





じょう こうずん である 首都郊外の鉱山で働く子どもたち。ブルキナファソ、2020年。 (©UNICEF/UNI394746/Dejongh)



世界でおよそ6人に1人の子どもが極度の貧困の中で暮らしています。 日本でも、7人に1人の子どもが貧困に直面。 紛争や気候変動、感染症などで、さらに悪化も。

世界でおよそ6人に1人の子どもが1日1.9ドル、日本刊にして約220円以下で1日を暮らす「極度にまずしい」 状態にいます。このような子どもたちは、とくに南アジアとサハラ以前のアフリカに集中しています。資面というと、食べ物や衣服がないといった経済的なまずしさを思いうかべがちですが、「安全な水が飲めない」「電気をつかえない」「教育や医療を受けられない」などの、生きていくうえで欠かせない、社会的サービスにアクセスできない状態のことも指しています。

世界の貧困は1990~2015年の間は改善してきましたが、それ以降は紛争や気候変動、さら

先進室の日本でも、貧困は存在します。たとえば、「予ざも(17歳以下)の貧困」はじょじょにへっているものの、いまだに7人に1人が貧困状態にあります。

このような貧困に苦しむ子どもたちの命や健康、権利をましるため、世界でも日本でも、政府や国際機関、その他さまざまな団体が支援を行っていて、そうした団体へ対する寄付などの慈善活動は、重要な役割をはたしています。



日本で行った募金が遠い国の子どもの命や健康をまもることにつながる



募金でこんな協力ができる!

みなさんもできる身近な慈善活動として、

零付があります。世界の子どもたちをまもるための支援について、どの程度の零付で何ができるのか、見てみましょう。たとえば、ユニセフは、 値人・企業・団体からの募金と、各国政府からの資金提供をもとに、世界の子どもたちのために、 栄養不良の改善や予防接種の実施から教育の向上まで、幅広い支援を行っています。

4100件の支援が▶

よごれた水を安全な水に変える浄水剤10000錠に変わります。この浄水剤1錠で、 $4 \sim 5$ リットルのよごれた水をきれいにすることができます。



6000神の支援が▶

子どもの栄養不良を改善するための機養治療食150 袋に変わります。常温で保存でき、調理の必要もなく、 袋の口を開けて、そのまま食べることが可能です。



10000円の支援が

経口ポリオワクチン、はしかワクチン、破傷風ワクチンなどをセットにした、子どもたちの命をまもるためのワクチン・スペシャル・セット60人分に変わります。



21000神の支援が

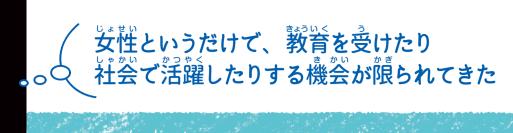


※支援額・内容は2022年2月時点。支援物資の調達費用だけでなく、子どもたちのところに届けるまでにかかる費用なども含まれている。 出典:日本ユニセフ協会「ユニセフ支援ギフト」より。



- ●慈善活動につながる商品を購入しよう
- ●「親切ノート」をつくって、いろいろな親切を実践しよう

6



男女の「決めつけ」をしない

理科の実験が大好きな女の子も、調理実習が築しみな第の子もいます。人生を豊かにし、社会をより良くするうえでたいせつなのは、女性らしさや男性らしさではなく、自分らしさです。男女の「決めつけ」をするのはやめましょう。家庭や学校で、おもちゃや洋脈、かばんの色などを題材に、男女の「決めつけ」について話しあってみましょう。自分らしさに、男の子であるか女の子であるかは関係ありま

せん。性別に関係なく、やりたいことを しょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしょう 一生懸命学ぶことがたいせつです。





生後11か月の娘に離乳食を与える、13歳の母親。8歳のときに自分 よりも20歳年上の勇性と結婚を強いられた。バングラデシュ。 (©UNICEF/UNI146727/Kiron)



性別に対する固定観念が、 世界各地で、女性の人権を侵害し、 社会進出や政治参加をさまたげてきました。 性別に関係なく、活躍できる社会づくりを。

すべての人が性別にかかわらず、平等な権利をもっています。けれども世界でも日本でも、「女の子だから」「第の子だから」といった性別による決めつけ、いわゆる直定観念がはびこってきました。たとえば「外で働くのは男性で、家のことや子育てをするのは女性」というものです。このように社会的・文化的につくられた性別のことを、生物学的な性別(sex)に対して、ジェンダー(gender)といいます。

性別による不平等は世界中にのこっています。女性というだけで、教育を受けられなかったり、10代で結婚や出産を強要されたり、人身売買の被害を受けたりしています。さらに世界の

女性の3人に1人は、15歳以降に身体的または性的暴力を受けた経験をもっています。企業の管理職や国会議員にしめる女性の割合は、それぞれ世界の平均で28.2%と25.6%で、日本ではその割合がさらに低くなっています。

この状況を受けて、世界中で性別に関する意識改革や、活躍する女性のロールモデル*づくり、そして育児・介護と両立しやすい働き方への改革など、女性がより活躍しやすい社会づくりのための取り組みが行われています。

※ロールモデル:自分の考えがや行動などのお手本になる人物のこと。



男女の格差を世界でくらべると日本は世界156か国中120位



ジェンダーギャップ指数上位と主要な国の順位

国名	値	前年値	前年からの 順位変動	順位	国名	値	前年値	前年からの 順位変動
アイスランド	0.892	0.877	-	63	イタリア	0.721	0.707	13
フィンランド	0.861	0.832	1	79	タイ	0.710	0,708	-4
ノルウェー	0.849	0.842	-1	81	ロシア	0.708	0.706	-
ニュージーランド	0.840	0.799	2	87	ベトナム	0.701	0.700	-
スウェーデン	0.823	0.820	-1	101	インドネシア	0.688	0.700	- 16
ドイツ	0.796	0.787	-1	102	韓国	0.687	0.672	6
フランス	0.784	0.781	-1	107	中国	0.682	0.676	– 1
英国	0.775	0.767	-2	119	アンゴラ	0.657	0.660	– 1
カナダ	0.772	0.772	-5	120	日本	0.656	0.652	1
米国	0.763	0.724	23	121	シエラレオネ	0.655	0.668	- 10
	アイスランド フィンランド ノルウェー ニュージーランド スウェーデン ドイツ フランス 英国 カナダ	アイスランド 0.892 フィンランド 0.861 ノルウェー 0.849 ニュージーランド 0.840 スウェーデン 0.823 ドイツ 0.796 フランス 0.784 英国 0.775 カナダ 0.772	アイスランド 0.892 0.877 フィンランド 0.861 0.832 ノルウェー 0.849 0.842 ニュージーランド 0.840 0.799 スウェーデン 0.823 0.820 ドイツ 0.796 0.787 フランス 0.784 0.781 英国 0.775 0.767 カナダ 0.772 0.772	アイスランド 0.892 0.877 - フィンランド 0.861 0.832 1 ノルウェー 0.849 0.842 -1 ニュージーランド 0.840 0.799 2 スウェーデン 0.823 0.820 -1 ドイツ 0.796 0.787 -1 フランス 0.784 0.781 -1 英国 0.775 0.767 -2 カナダ 0.772 0.772 -5	アイスランド 0.892 0.877 - 63 フィンランド 0.861 0.832 1 79 ノルウェー 0.849 0.842 -1 81 ニュージーランド 0.840 0.799 2 87 スウェーデン 0.823 0.820 -1 101 ドイツ 0.796 0.787 -1 102 フランス 0.784 0.781 -1 107 英国 0.775 0.767 -2 119 カナダ 0.772 0.772 -5 120	アイスランド 0.892 0.877 - 63 イタリア フィンランド 0.861 0.832 1 79 タイ ノルウェー 0.849 0.842 -1 81 ロシア ニュージーランド 0.840 0.799 2 87 ベトナム スウェーデン 0.823 0.820 -1 101 インドネシア ドイツ 0.796 0.787 -1 102 韓国 フランス 0.784 0.781 -1 107 中国 英国 0.775 0.767 -2 119 アンゴラ カナダ 0.772 0.772 -5 120 日本	アイスランド 0.892 0.877 - 63 イタリア 0.721 フィンランド 0.861 0.832 1 79 タイ 0.710 ノルウェー 0.849 0.842 -1 81 ロシア 0.708 ニュージーランド 0.840 0.799 2 87 ベトナム 0.701 スウェーデン 0.823 0.820 -1 101 インドネシア 0.688 ドイツ 0.796 0.787 -1 102 韓国 0.687 フランス 0.784 0.781 -1 107 中国 0.682 英国 0.775 0.767 -2 119 アンゴラ 0.657 カナダ 0.772 0.772 -5 120 日本 0.656	アイスランド 0.892 0.877 - 63 イタリア 0.721 0.707 フィンランド 0.861 0.832 1 79 タイ 0.710 0.708

日本のジェンダー ギャップ指数 経済 117位 教育 92位 医療への アクセス 65位 政治参加 147位

ジェンダーによる格差がどれくらいあるかを数値化したものが、世界経済フォーラムが発表している「ジェンダーギャップ指数」です。「経済」「教育」「健康 (医療へのアクセス)」「政治参加」の4つの分野のデータから作成されていて、0が完全不平等、1が完全平等を崇しています。2021年の日本の総合スコアは0.656で、順位は156か国中120位でした。先進国の中でもっとも低いレベル、アジア諸国の中でも韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果となっています。

出典: 世界経済フォーラム [The Global Gender Gap Report] (2021年) より。



- ●どのように性別の決めつけがされてきたか考えよう
- ●性別に関係なく、やりたいことに一生懸命挑戦しよう